

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 4 月 19 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25284015

研究課題名(和文) 喪失と悲嘆に対する宗教的ケアの有用性とその専門職育成についての研究

研究課題名(英文) Effectiveness of Religious Care for Loss and Greif and Care Provider Training

研究代表者

谷山 洋三 (TANIYAMA, Yozo)

東北大学・文学研究科・准教授

研究者番号：10368376

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 16,800,000円

研究成果の概要(和文)：臨床宗教師の活動実態調査を行い、その意義について明らかにした。さらに、臨床宗教師のケアの特徴を表す「宗教的資源の活用」などケア方法を整理し、公共空間における倫理的なプロセスを明示した。その教育や社会実装において最も重要な成果である。様々な宗教的資源のうち読経の効果に着目し、心理尺度と生化学指標を用いた実験を行った結果、読経聴取という簡便な方法により悲嘆ストレスが軽減されることが、世界で初めて客観的データによって実証できた。

これらの成果は東北大など諸大学で実施されている養成プログラムに活かされており、熊本地震の被災者支援や、緩和ケアや在宅ケアなどヘルスケア分野での活動の下支えとなっている。

研究成果の概要(英文)：We have researched on 'interfaith chaplain', who is a professional of religious and spiritual care, and on their way and process to provide care. We organized various ways of care, including 'the Application of Religious Resources,' that can show the feature of interfaith chaplaincy. This research revealed the best ethical process of care in public places. Furthermore, the result of our first experiment on the effect of religious care shows that listening to sutra chanting can reduce bereavement stress. These fruits are made use of several training programs. The chaplains are helping the survivors of Tohoku and Kumamoto Earthquakes; as well as patients, families and staff of health care, especially at palliative care settings.

研究分野：宗教学

キーワード：臨床宗教師 スピリチュアルケア グリーフケア 宗教的ケア ストレス軽減

1. 研究開始当初の背景

東日本大震災の被災者支援においては、宗教者による活動が注目され、研究代表者である谷山らが主導して東北大学において臨床宗教師（公共空間で心のケアを提供する宗教者）の養成が始まっていた。

海外での祈りの効果に関する研究はあったが、それらは基本的にキリスト教文化圏での発想に基づき、キリスト教式の祈りや、瞑想などケア対象者自身の主体的参与が想定されたケアのあり方を前提としており、我が国の文化には適応しにくいものであった。それに対し臨床宗教師は、日本の民間信仰など宗教文化を尊重することをコンセプトとしており、この主旨に適合したケアのあり方を構築する必要があった。

2. 研究の目的

臨床宗教師が提供するケアの効果を実証することで、被災者等にとってより有益なケア方法を開発し、臨床宗教師の養成を通して普及することを、本研究の目的とした。

臨床宗教師による心のケアは、「傾聴と実存的相談」「祈り・冥想」「儀礼・儀式」の3種に大別できるものと想定し、それぞれケア提供者（臨床宗教師）とケア対象者（被災者など）の両者の視点から、その効果を測定し、これにより臨床宗教師の教育プログラムに活用できると考えた。

3. 研究の方法

まずは(1)国内外の文献調査や、国際会議開催・参加や海外視察による実践者・研究者からの情報収集を行い、これをまとめる。

被災地等で活動する(2)臨床宗教師の活動内容・ケア方法・ケア対象、(3)ケア対象者である被災者や遺族などによる主観的評価について、質問紙調査とインタビューによって明らかにし、また(4)公的な統計を用いて臨床宗教師によるケアの効果を客観的に計測し、(5)上記(1)～(4)の成果に基づいて臨床宗教師養成のための教材開発を計画した。

しかしながら、(4)の実施は困難であったため、これに替えて(6)心理尺度・生化学的指標によりケア効果を実証する実験を行うこととした。

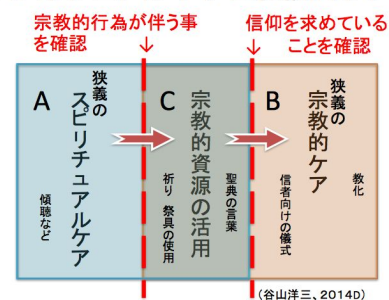
4. 研究成果

(1)臨床宗教師の提唱経緯から活動内容まで、被災地における実態を把握することができた。その成果は、以下の論文、図書で発表した。図書では東日本大震災から臨床宗教師研修開始にいたる経緯が詳しく報告されている。活動内容については論文で電話相談における宗教協力の意義を、論文では読経や儀礼によるケアのあり方を明らかにした。これらの成果は、後述の(1)(2)の基礎となっている。

(2)臨床宗教師によるケアには様々なアプローチがあり、それらを分類し、公共空間で

のあるべきプロセスを明らかにした。まず、ケア概念とその分類は、図書でまとめている。研究開始当初は、「傾聴と実存的相談」「祈り・冥想」「儀礼・儀式」の3種に大別できるものと想定していたが、これらを再構成して、以下の図のように「(狭義の)スピリチュアルケア」「宗教的資源の活用」「(狭義の)宗教的ケア」とし、狭義のスピリチュアルケアから始まり、ケア対象者のニーズに応じて、宗教的資源の活用、さらには狭義の宗教的ケアに展開するプロセスを理論化することができた。

スピリチュアルケアと宗教的ケア



このうち「宗教的資源の活用」という概念は、臨床宗教師のケアの特徴を表すものであり、かつ、この概念によって宗教の公共性を特徴付ける可能性が浮上する。この図は、臨床宗教師の社会実装を想定するときに、教育上もっとも重要な概念となり、本研究を特徴付ける二つの重要な成果のうちの一つである。

この図に基づき、公共空間における倫理的なケアプロセスの詳細を示すことができた。論文、発表、図書でその成果を発表している。

また、これらの成果は教育プログラムにも適時反映され、発表と図書に関わる。研究代表者と谷山、研究分担者の鈴木、連携研究者の高橋が牽引する東北大学実践宗教学寄附講座が主催する臨床宗教師研修のみならず、龍谷大学、種智院大学など他大学での同様の研修においても活かされている。これにより、より社会のニーズに沿った臨床宗教師の姿を具現化することができ、熊本での被災者支援や、全国各地の医療福祉施設での臨床宗教師の活動を下支えしている。

(3)本研究のもう一つの重要な成果は、読経の効果を実証したことである。従前より僧侶の間では、読経前後の遺族や祈禱依頼者の様子の好転が認識されていたようで、論文の僧侶に対するインタビューによっても示唆されている。しかし、客観的データによる証明はなされていなかった。

本研究の分担者である得丸、奥井、ベッカーは、瞑想の効果に関する研究(図書ほか)や動物飼育による心理変化(論文ほか)、ストレス対処法に関する研究(図書ほか)

を行っているが、これらの成果をベースにして、ペットロス経験を通じた悲嘆ストレス軽減を測定する実験を行った。

平成 26 年度には、パイロット研究として大学生を対象にした実験を行った。51 日間の金魚飼育（愛着形成）の後、金魚の死を告知し（実際には生きている）、実験群には読経を聴取してもらい、対照群には室内で静かに過ごしてもらった。自覚ストレス（JPSS）、多次元共感尺度（MES）、不安尺度（STAI）、悲嘆尺度といった心理尺度と、s-IgA、-AMY の生化学指標により、喪失体験前後の変化を測定した結果、生化学指標に有意差、ないし有意傾向が確認された。その成果は、発表で発表し、論文にまとめた。世界初の成果である。

このパイロット研究の課題を精査・修正し、平成 28 年度には、実際にペットロス（イヌ、ネコなど）を経験した市民を対象に同様のプランで実験を行った。ストレスはパイロットのような擬似的なものではなく、動画によってペットとの別れを想起してもらった。その想起後に 2 群に分かれて、実験群には読経、対照群は静座してもらった。その結果、統計的に申し分ない水準で実験効果が明示された。発表で学会発表しているが、そのレスポンスを受けて詳しくは分析中・再検討中である。

このように、読経を「聴取する」という簡便な方法により、悲嘆ストレスが軽減されるということが客観的データによって実証できた。ただし、読経の文化的要素や音楽的要素など、その要因については明らかにならず、今後の研究の進展が期待される。

研究方法の一部に路線変更があったものの、「臨床宗教師が提供するケアの効果を実証すること」と「臨床宗教師の教育プログラムに活用すること」という、本研究の目的は達成されたと言える。

蛇足であるが、臨床宗教師の活動範囲は、当初の想定を超えて、被災地だけでなく、ホスピス緩和ケアを基軸に超高齢多死社会を迎えようとする我が国の、地域包括ケアシステムに貢献できる道筋ができつつある。本研究の成果は、被災者だけでなく、苦悩を抱える国民一般が受益できるものとなり、今後の当該分野の進展が不可欠となるものと思う。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 49 件、うち 5 件）

谷山洋三、宗教的ケアにおける教化の二側面 < 既信者教化 > と < 未信者教化 >、仏教看護・ピハラー、査読有り、8 号、2013、76-88

Yozo Taniyama and Carl B. Becker, Religious Care by Zen Buddhist Monks: A Response to Criticism of “Funeral

Buddhism”, Journal of Religion & Spirituality in Social Work: Social Thought, 査読有り, 33, 2014 1-12

DOI: 10.1080/15426432.2014.873649

谷山洋三・森田敬史、電話相談における宗教協力の意義、論集(印度学宗教学会)、査読有り、42 号、2015、41-55

石川みどり・小野塚知美・良波祥吾・奥井一幾・得丸定子、小学校での動物飼育授業における児童の心理変化～豚の飼育から出荷まで～、上越教育大学研究紀要、35 巻、査読無し(通読あり)、2016、239-255

谷山洋三・得丸定子・奥井一幾・今井洋介・森田敬史・郷堀ヨゼフ・カール・ベッカー・高橋原・鈴木岩弓、経文聴取による喪失悲嘆ストレスのケア、仏教看護・ピハラー、11 号、査読有り、2016、151-165

〔学会発表〕（計 84 件、うち 7 件）

Yozo Taniyama, Hara Takahashi, Iwayumi Suzuki, New Education Program for Rinsho-shukyo-shi (Japanese-style Interfaith Chaplain) started after the Great East Japan Earthquake, The 10th International Conference on Grief and Bereavement in Contemporary Society, 2014.6.13, Hong Kong University (Hong Kong, China)

谷山洋三、公共空間における宗教的ケアのプロセス、第 7 回日本スピリチュアルケア学会学術大会、2014. 9.7、上智大学（東京）

得丸定子・谷山洋三・奥井一幾、喪失悲嘆ストレスケアとしての経文音効果、第 31 回日本ストレス学会学術総会、2015.11.08、杏林大学（東京）

谷山洋三・今井洋介・奥井一幾、経文聴取による喪失悲嘆ストレスケア」第 21 回日本臨床死生学会大会、2015.11.16、帝京科学大学（東京）

谷山洋三・奥井一幾・得丸定子・カール・ベッカー・今井洋介・高橋原・森田敬史・鈴木岩弓、入棺体験による死生観への影響、仏教看護・ピハラー学会第 12 回年次大会、2016.8.28、西本願寺聞法会館（京都市）今井洋介・高橋原・谷山洋三・鈴木岩弓・得丸定子・奥井一幾・森田敬史・郷堀ヨゼフ・カール・ベッカー、経文聴取は喪失悲嘆ストレスを低減しうるか、第 29 回日本サイコオンコロジー学会総会 北海道 2016、2016.9.23、札幌コンベンションセンター（札幌市）

谷山洋三・奥井一幾・得丸定子、読経により悲嘆は緩和されるのか？～心理尺度と生化学指標による実証～、第 24 回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 in 久留米、2017.02.04、久留米シティプラザ（久留米市）

〔図書〕（計 29 件、うち 6 件）

北陸家政科授業実践研究会(編)(得丸定子共編著)『考えるって面白い』所収、得丸定子分担「気持ちと身体と行動をつなぐ、ストレスとコミュニケーション対処スキル」、教育図書、2014、158(122-129)
鎌田東二(編)、『講座スピリチュアル学1 スピリチュアルケア』所収、谷山洋三「スピリチュアルケアの担い手としての宗教者:ピハ-ラ僧と臨床宗教師」、ピング・ネット・プレス、2014、287(125-143)
鎌田東二(編)、『講座スピリチュアル学1 スピリチュアルケア』所収、カール・ベッカー「スピリチュアルケアとグリーフケアと医療」、ピング・ネット・プレス、2014、287(144-166)
カール・ベッカー・奥野元子(編著)、『愛する者をストレスから守る～瞑想の力』所収、得丸定子分担「学校教育と瞑想」、こころの未来叢書3、晃洋書房、2015、201(101-136)
谷山洋三、医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア 臨床宗教師の視点から、中外医学社、2016、179
磯前順一・川村覚文(編)、『他者論的転回宗教と公共空間』所収、鈴木岩弓分担「『臨床宗教師』の誕生 公共空間における宗教者のあり方」、ナカニシヤ書店、2016、390(290-318)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

谷山 洋三(TANIYAMA, Yozo)
東北大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号: 10368376

(2)研究分担者

ベッカー カール(BECKER, Carl)
京都大学・こころの未来研究センター・教授
研究者番号: 60243078

得丸 定子(TOKUMARU, Sadako)
上越教育大学・大学院学校教育研究科・教授
研究者番号: 00293267
鈴木 岩弓(SUZUKI, Iwayumi)
東北大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号: 50154521

奥井 一幾(OKUI, Kazuki)

神戸松蔭女子学院大学・人間科学部・講師
研究者番号: 90766969

(3)連携研究者

高橋 原(TAKAHASHI, Hara)
東北大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号: 30451777

今井 洋介(IMAI, Yosuke)
新潟県立がんセンター新潟病院・内科部長
研究者番号: 30650395

(4)研究協力者

森田 敬史(MORITA, Takafumi)
長岡西病院ピハ-ラ病棟・ピハ-ラ僧

郷堀 ヨゼフ(GOHORI, Josef)
淑徳大学・アジア国際社会福祉研究所・准教授
研究者番号: 80611152